

# ブラジル -予想を上回る大幅利下げ-

## <政策金利を0.75%引き下げ>

1月11日（現地時間）、ブラジル中央銀行（以下、BCB）は金融政策委員会において、政策金利を0.75%引き下げ13.0%にすることを決定しました。利下げは3会合連続で、利下げ幅は前回の0.25%から大きく拡大されました。

声明文では前回同様「足元のブラジル経済は前回の見通しから下振れて推移しており、回復時期は遅れる可能性がある」と指摘しています。

また「0.50%の利下げを検討していたが、ディスインフレーションの広がりや景気回復の停滞により大胆な措置が求められていると判断し、より積極的な緩和に動くことを決めた」と利下げ幅が大きくなった背景を説明しています。

## <ブラジルレアルの動向>

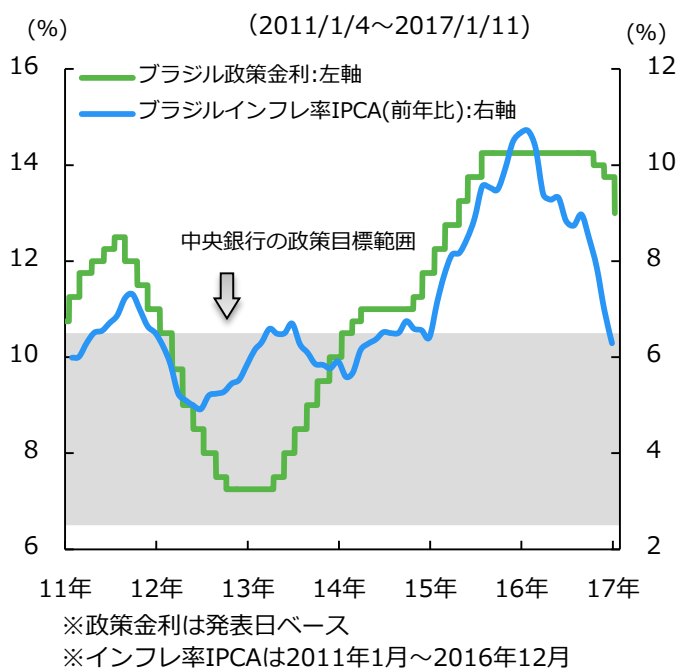
大幅な原油安や政局不安から下落していたブラジルレアル（以下、レアル）は、2016年に入ると原油相場の反発や、テメル新政権による財政再建と景気対策に対する期待感の高まりなどから持ち直しました。2016年11月には米大統領選後の米金利上昇やテメル大統領の口利き疑惑などからレアル安となる局面もありましたが、政治的混乱が短期間で収束したことや歳出上限法の成立などを受けて、足元のレアルは堅調に推移しています。

1月11日の海外終値は1米ドル=3.193レアル、1レアル=36.12円となっています。

## <今後の見通し>

ブラジル経済の低迷が続いている一方、インフレ率の低下傾向や財政再建策の進展に伴う通貨の減価圧力の後退から、BCBは景気支援のために今後も利下げを行う可能性が高いと予想されます。利下げによる中長期的な景気回復期待や財政再建策の進展、利下げを実施してもなお相対的に高いブラジルの金利水準がレアル相場を下支えするものと見込んでいます。

## <政策金利とインフレ率の推移>



## <ブラジルレアルの推移>



出所：Bloomberg